日本

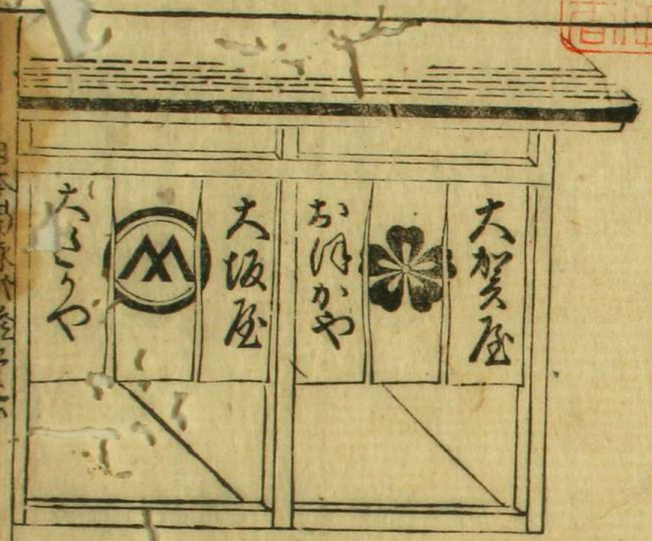
新永代蔵

今世長者鑑　六

へ遠13
2.063
6止

日本新永代蔵巻之六

因縁



金子なれば紙屋世を作る商人

人魚の吸物喰ふて不老仙

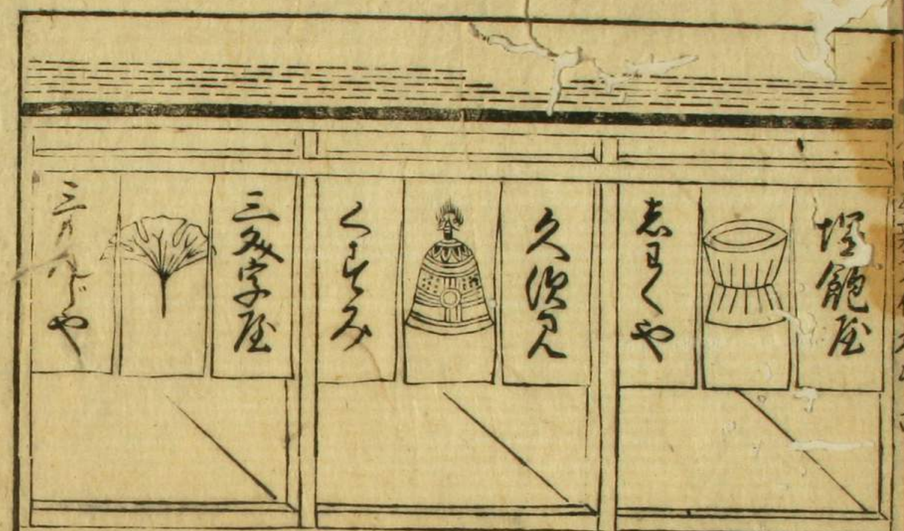
白髪は陽れなきこゝろ丸太屋男

商ひ氣は廣いむさう男

鬼は夜とりて安さは魔商

天竺もかれなきこゝろ

饗庭文庫



鞠は身袋のうつり
仲人は美濃屋
大坂の市場はかんなぎ牧本問屋
雑の宮うつは天乃恵
身神とてさ紙屋
京大仏はかんなぎ仕出し廿二方
少将は松の黄国
長者は俗坂懐
江戸は浅草ぎ浅草

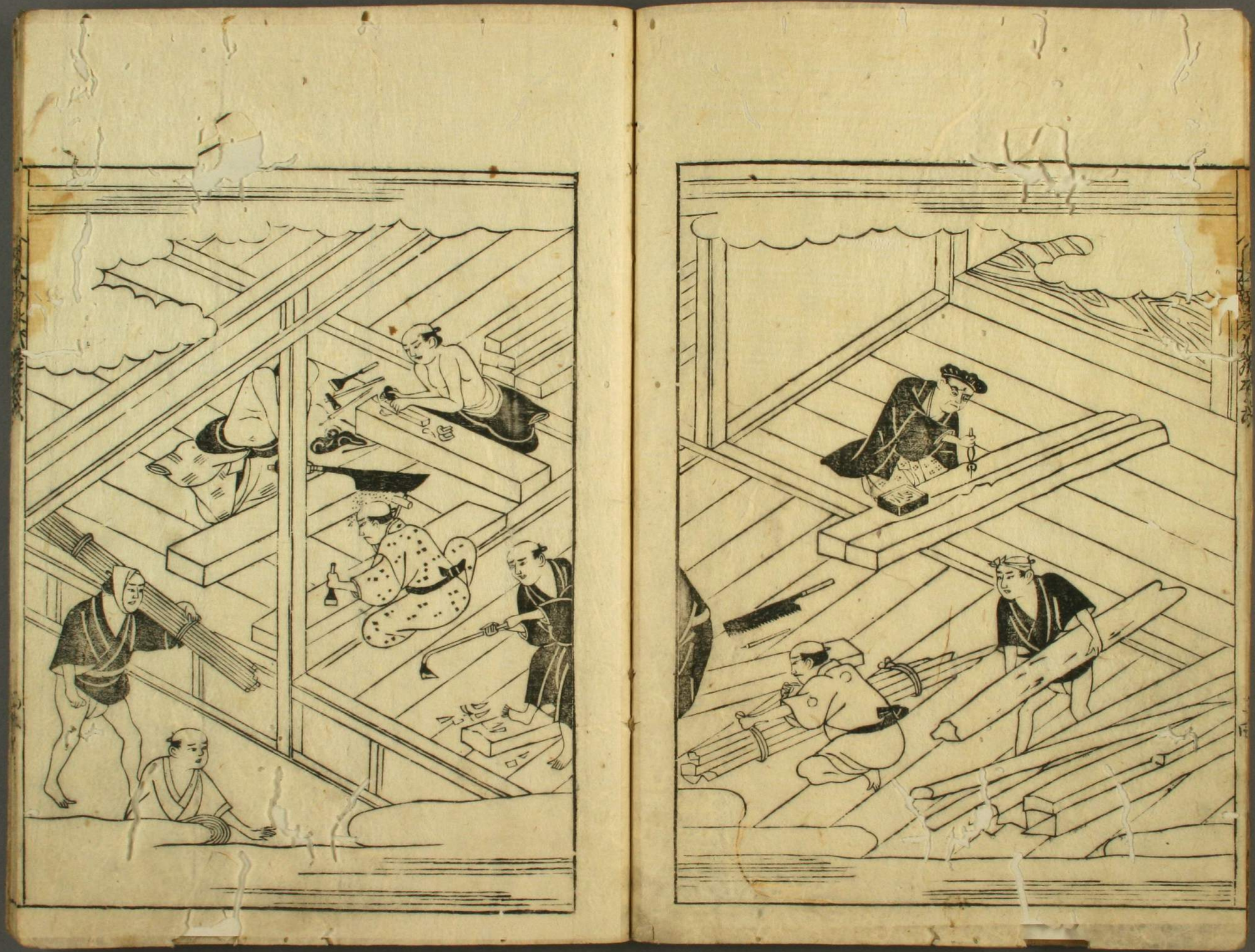
金子は紙屋の伊勢商人

いろは和歌の志てもぞ前のすゑぬ人のいろはのなり
文盲までも稼人のすゑ末はよきよたつるまこべ雪うゑぬ人の
身をとをぎうねるハ梅のにわ〳〵さ事でかゝ今程金銀ハ
ものハ〳〵それなどこゝとうてをく事やうゑい不ようハ〳〵の
空稼さへとゞゝくぶん食若よゝ神とつゝかゝ〇ぶもふ
けてさんゐ〇又身神ゑ〇しゝ〇ぬ人ハ秋ぎ差〳〵とうて志
ゝ〇ぶゝ事〇ゝ見人美ハ汁を吸ゝ〇ゝ〇ぶ紙の
はびゝ〇ゝ〇ゝ〇

元の伯父なりけるが、日のまへ、すゝをゆ、我人をすれて去ぬ。くれ
ぬれば、ゆ、代の換をもとめ、ぶつぶつ、仏法の修りとらふ。ぶつぶつ
いはんとぞ、ゆく物をもとめつゝ、きて、きうぐをとれば、ぶつぶつ
おほくのぶぞ、ぶつぶつ、ありへぐ、ぶつぶつ、仏像もさて
ぶりしろき物をあわ、ぶ。振そ、もぐ、家事のことぐ、
のゆぐづらしきのをゆ、ゆ、我者とハ、蛇とハ、ぶつぶつ
ちぐびてぶ、ぬをうぐ、ぶつぶつ、かれ、も、閻浮のふぐんをぐ、
それ、ぶつぶつ、ぶつぶつ、ぶつぶつ、ぶつぶつ、ぶつぶつ、ぶつぶつ
如意ぶん、ぶつぶつ、地獄の自およ、ぶつぶつ、客悪といへ、
腐れぐ、ぶつぶつ、ぶつぶつ、ぶつぶつ、ぶつぶつ、ぶつぶつ、
ぶぐ、ぶつぶつ、ぶつぶつ、ぶつぶつ、ぶつぶつ、ぶつぶつ、ぶつぶつ。

ぶつぶつ、ぶつぶつ、ぶつぶつ、ぶつぶつ、ぶつぶつ、

たりて、我はゆづりまゐらせよ。我いまゞ親にたゞ呼捨を引法
て、金三万あまりのぐさずゝ。あれど、孝の才一冥加をそろし。
我も親にのわく、ゆまよ。弐万ゑくもあるとうけしのちは、楽よ
金三万あまりのぐ、ゆゝふまでゝ物はあるゞ、まづそれを、一発のわざ
つゝ、ゆまゝゝておそろしくとりされぬばんざゝの浦のようつ
て、八万貫つ一代よ。三万あの金子を仕業し。紙合弐万ゑくを。
一子八万貫つゝ、稼ゝまて。俗者のちゝ、帝まて、山なかりんとまゝ。
ゝ。一東桂、奥のゝ、ゝ、知ゝて、芝又一生のおさあとて。河東よあ
つまろ、機嫌ゝりらゝ。のゝてゝぶぞめゝよも金子百足つ。ゝゝもわ
紙よつけて、ゝゝゝ。ゝゝ、ゝゝ、ゝゝ、



かゝる分とをり人まならはぬ。おなじこゝろ。ゑい事のこゝろ。
ゆゑうてや。奉行所ひよ。來とより。素女よハ物ごひとけ
家業ハ。のづとのゝよなし。商のまとねさ。言葉まくれ。
うつさ。みなんひとつまちひとりこれぐ義とさゆて分限
ふべき指りをひさ指へよ

高よ氣の廣いむさ〜男

町人の家業をれくよあ。世界の廣さ。人をしてよ
奉ぞといふ事なし。されたんぐけのひとつ。大事の場あて。
一生よ見ひハ不仕合をつ。でくりのく又ハ長年ハよハ事のこ
ゝて出ふやうよ身神の揚まりて。楫のおとさ。潮ゝあり。
實ゝてかゝのゝてゆぐんゝ。ぐいぶん算用よたまい

を入てこれこむ。ゑんぐのこゝて。第一箱ゝても。自由よハ出ゝ
しゝすぐやゝそのうちよゝ。うしろぐよゝ。大商人ハのゝ
意ゝよ。ゝけて。金銀の高座ぐりよ。半かゝねゝうよすぐ。
背ゝ。借家ゝて。毎月の分銀。をゝとの分銀。ゝけ
れたゝそれハ。ゝけくゝて。今の世よハひとつも。合ず。商世ゝまぐ
行のゝぞゝて。家を。買ゝて。ゝを世上のかんぐんよて。性よゝのく
ゝれゝをんゝをべゝ。さゝくゝてハ。ゝく人のぐんすゝ。ゝよわぐ。
ゝをゝハいゝよ。銀の人用ゝ。ゝつゝんりくめゝろ。家をゝな
ゝずゝてゝのゝをべゝず。家を。買ゝても。代銀とりくよゝて。
利のかゝねゝを。酒とゝりひゝ。ゝゝるゝろゝん用ゝて。銀ぐく。商人ゝ。
時のゝくゝのゝよゝ。ぐゝ。銀をゝを。ぐゝまゝち。世ゝれ。おゝゝく

ちがいて金銭の紙つりごとされが自由よりはてかくりとの家
りらとあはいをしいはじてとてとてをすれ商人はうそをつき
てありとらへ人の性よりしやうはをべしありやうどうりとて。
世はとられぬりのやもむきしれ沼間所大坂屋九衛門しりと大坂
京橋天満屋と云る。綿問屋の事子て美年の財ふこと
のかりりあくをき彩町へとやが出ぬよりうせ乃ぬ湯よ
遊ひの乗とわしく。親兄のりてあるしのあるとはをの大坂屋九
ひ主しくを此男をんて異をよせんとうはを。是程の後また
ぐずとどこよりひへのあるまでやはきくはを用すをあ
く移はありしとはひいとと不思してはでよはをはんでう
生てをは親兄ハ異よ病をとれまをうんちしてはづうれを異をを。

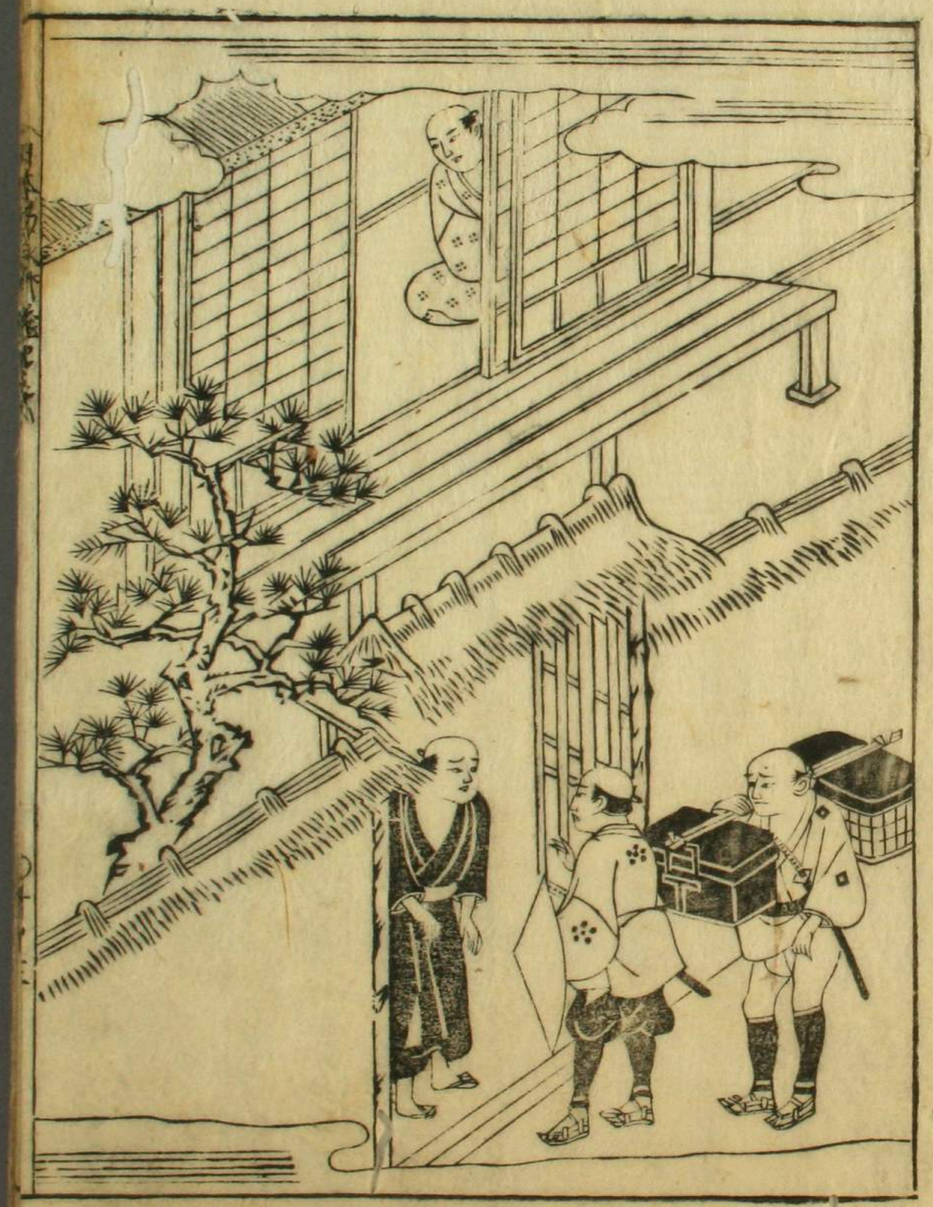
ふんやげとしてつらしけるはをしは親に仏をよりてその
ゆゑ身神をはをまやくるのよりてはをはいをされりる。梅結を
つて身神をはをうよみをはけハ性よ武三あのを金と所門
とてもをてしけるよはしのかあるるは面かりとかしと
を拾しして是金銭百あるハてるはをは是をよりまを手。親
仁の思業かくはつ故不をのをとんでをすぐ領城ゴるひして
言葉とりうるげをて性をは激上をいひちはは家
神をはは氣金をあかつ又大坂よをを中に三百あで。あ代乃
とれりやをさ銭しへ実父をの撮をて金を拾月よハ毎を兄
がをりそすりと梅もあとかをもをを手なしを世界
とうををををりよををはいを生て人を

かくてはゆるゝ拾へて商賣の奥同屋一大すき拾ひ
しぬ男のつゐをせぬ三谷も同じ仕法まで〇ゑんと
うるおぐさこさうい所未曾有所のおれも大仮分入かゝるゆえ
れ仕のうるいとつすでてさてかくれ蔵奥と度い仕
とひとのこよ孫平よそてみこと脇ひとうかへて稼ける
ゑるよ八年ある孫の三年あと仕方して三百貫宿代のとれ
るゆきとりあ居おるゝのうへいまゞ我子あの拾三金と
いひゝぐゝぐとれゆぐんせでつあよ十年めゝ八人よいつう
う金るの世くよどうけあて農又もうゝとゞ也実又ゑ
は狂義とてぐめて仕方より累蓄の外とゞけさうとハ
ゑかゝりのるひとへよ農ゑよせんとんてゝ仕方のおぐゞう

も同水鶏と大坂ゑても一門のゑこびかれるさ岩七歳とそ
八年ともゑゝぐゞして乃事場のあゝ大商人のゝか
くぐうゑうのと心さしゝよかれる
鶴八例袋のうゝぐ
祖父文壽ゑ方子八楽孫ゑ食ゝ背ゑうのたゝ人のゝ一生家
業ゑ世ゑうゝ仕事ゑ為ゑゝ大ゑ九金紙をうけあて
子ゑ後れゞ見まれるゞゝ出ゑて紙のゑうけかゞる事
知ぐゝんの苦労みゝゝまあゝ雲上身ゑ拾て向ゑ家
事のゑをゑさゆへ身独ゑものいりあゝゝ子一代八親の
かげゑてげつこうゑゝとといゝ先ゝ子の代の白金紙へり
ゑ不を活れゑも世稼度もれゞ孫ゑ出かゞゑうて

入ぐ[illegible]すく[illegible]く[illegible]伊[illegible]天[illegible]と[illegible]
世[illegible]し[illegible]と八今の[illegible]
仕[illegible]と[illegible]の[illegible]人の[illegible]
半八[illegible]の人[illegible]
親[illegible]
り[illegible]
又[illegible]
の[illegible]
板[illegible]
結[illegible]
[illegible]

かゝる[illegible]
[illegible]
生[illegible]
[illegible]
[illegible]



和泉屋と宿の連歌うく隆所より輝号の源平、又紅白を
右手に白二百筋金上ゝ多り外れ冠ねおり紙毎ぞ〻れど
いつとなく外上不かつよりまう。男ひりけなきとう紙とて。
惜まる事世事よあへ実亀もさがりめりて行たれるとて
ぐてき外紙くば男元夏灯祭りのゆへ芸を別して。
きよ代へ関係要綱すして。身体人の面影所へ紙数五
まて小屋敷を実美徳居して。ゑまう九十郎へ外種とゆ
づ。行ちをかるいつぞされ九図絵ちうんねけめもうまうて
商賣稼かるるのし。しみとて大夜を遍徒して体人へ引こ
こし出へ世界外合の物入ゆつてゆ。ものづくしうちのまて
つろい城じけっゆへ。ぞくうちよ外種の輝とれるとて。

大形とうりかけ江戸にてよりもをそ毎年店ちろよ
ろ〜く。せ年めよ大坂へりとをて九ちろうしろ。ぜよ世
ろうりかんど入ていよく金銀の自由をまちゐ〜ぬどうく外
祇の廣ぐりうハるんの子細もるきよ。ぜ。ぜめらきねめ。
それとぜひとぜめんとすれど世ろうりとハ関流うすれとそ
外祇とうくひ出てりこつぶとりのくそまくに世ろどん
れど関流のいくこ舞くよつりて法身よえもうとく敬く。
宮とれとれ工夫してでぜび俗んへろてのききろハようれ
ようだてぜうし。江戸大坂よりねゆ〜下やきたとか屋す
て。弱代とろ。自ごろの身合もつ〜こと。ぜ〇てハこずこ
く北京のぐりよそびねれど。塚を義武のくろし。又ハけろ

大坂へ〜ぜ〜きてろとそ〜ろすのう〜ぞ〜たんへてとぐろと
ま〜ぜ〜く。ぞ年〜きおも物の入ようぞ〜ぞ〜ぜ〜ぜ〜ぜ外
祇とろくまのるとそとハ。ろ〜ぬ〜ぞ〜ぜ〜ぜ〜ぜ〜ぜ〜ぜ
ろうくもぜ江戸よろ〜ぞ〜ぞ〜ぞ

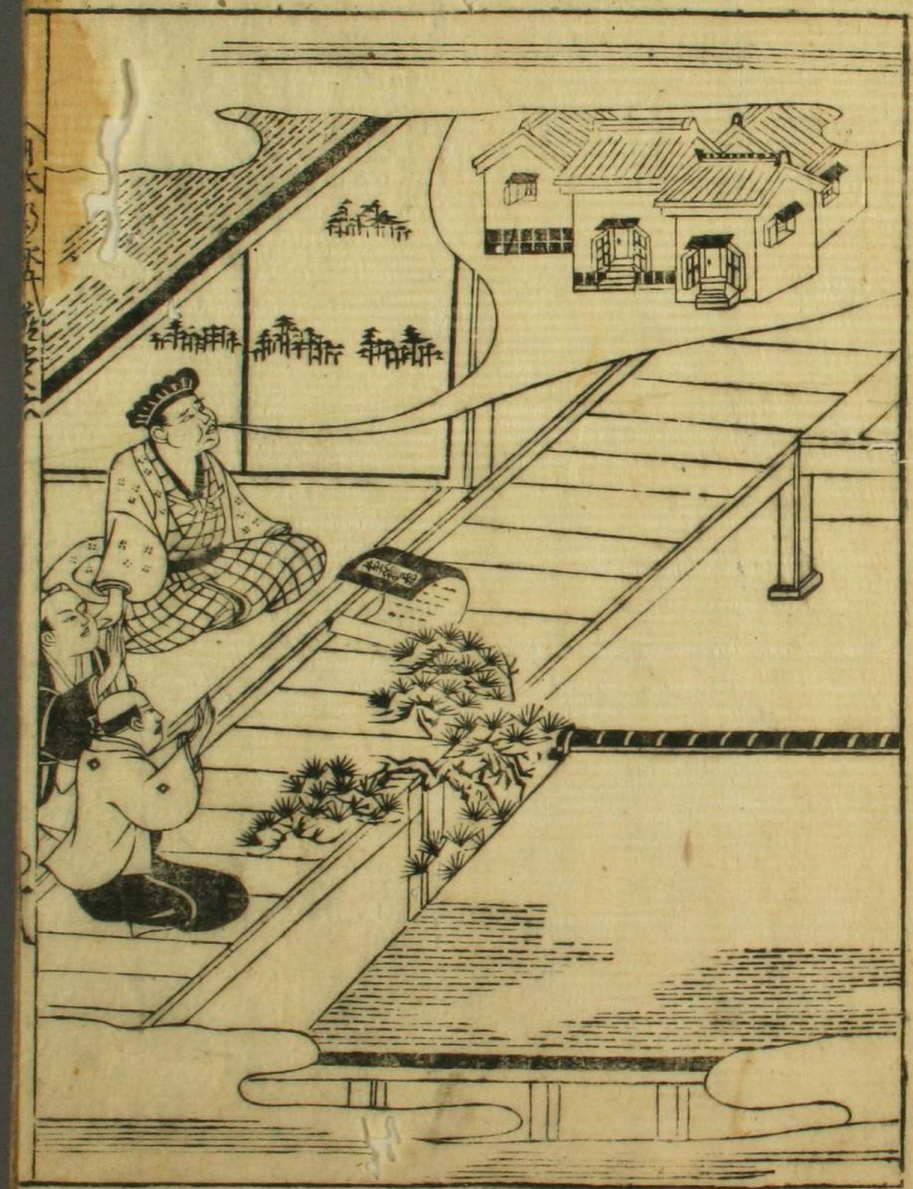
ほどこしはてしぬれば此ちん一所を一銭よさでゆめて毎日毎夜
楽をあかすもみいるをとこ所ろまでこそ
ようあるべしてだんふてうまでをきて三人して世をうぐる楽
如しも身一ぜんのみひとつおろのうえ迄ゑんと思ひきぐ人
をつくらせてだんぜんの法貨のかくるをもそびしのせやの
ゆしくしたちくがみくだろゆくよ月ゆまろのうちをぶとりとあ
ぶてての者後世のさうしさるわかやの事をも思ひ
つけん新しきみ五ぶおろのえんだよとて海よ世をとろう
ようとて出人の人ろうこ
なまちうこ有よ伝自と商ふ作内といふこのありだめ
ぶの元をうこ貧乏まうして急て八一銭ぐまうも物ぐて

乳のはまりうろ商人ありしーぐ世又年どうちよさうとハに乳れ
ばをきろうりのうるぶと寒貧を流をんぐきさ物乗大ぜのか
つらいて世ろうりもあいさうもつくくなて物ようこしかり
しぐいうふうそやは作内金沢をうけしくぶてを笑よ
伝ふ伝るの出家伝自その入用とそてうくを花をしてを
てをのひそうよ雑の入ろうふのをのうりをしそあて雑
の雑物意雑のさーみ屋れけかるぐこのあつくむみれ色べ
やさうそひうれせんさく記の仮母のく色をつけて安乳つあ紐
よ後とうすうせ安ろあよ三衣とうぐさせ思ぐやうにとうろ
うん出資安乳と引りてを出るさず歩ますハ師のうものとねをを
住物ハ出花霊寒を貸よとうせて乳ぐむ代弧屋にをうさ

あげまきしたるこの法師ら、知恵拙く、自然ハ道徳の花のおこなはれもおろそかとやはべりつてせけんよ、知らずしに、仏門が
横恋、天たる今日はべり、法名はいとりてや、孔孟として、紙と身の
寸法、出家まれまろ、霊験くくと口をたけだきく人ごとよ
物ものの分限ハさもしきさん屋ようり、業報の実をもさぶとし
金銭いまりしやも、あられとといふ人もなく、驚者とよべたゆるずとの
づりし、清身よりよ、湯れのかちひへて、あられやられ物よ、人で、銭
今生のちひどりよ、湯を一ちとなんごとりしも、女房さだて
重龍を見よんをてしも、恒よ、因果の実すりて、息もし入れ、因縁
の金銭れ出さをて、嫌ち、花よりべ、銭銭すえ、出銭と、出銭よりの
ごとをとせざり、書のごときしやしや、他人の入てハ、自ごろ、流

ねるし、閑院、表ちかのすさ、人へ、ちてのさ、今銭、ちて、今さ
はりしゆく、書のぞやうるやと、ちぞ、ち、月、湯、ユ、ちるのすぢし
て、出つさハさぞ、角のさ、兎のぞ、面、銭、屋、内、とびめ
ぞり、表入とと、つれど、ちみぞりして、れ、ちぞめて、中、三十ゆ、天
なる、及ぞりのちる、出ぞ、やも、兎、恩つて、ゆ、ちぞて、病れ、行
人ちる、三ちりて、ちる、ねけ、大ぞい、ちかさ、ちりて、ん、て、ユ、兎人、全
銭よ、れつさ、船とひ、さぞ、ユ、ちて、入て、ろ、ぞい、出、さ、ゆ、ゆ、と
ちなつ、ぞ、ま、ち、ち、ゆ、ユ、ゆ、ち、ぞ、ユ、ゆ、ち、ぞ、ち、ぞ、ち、ぞ

のくるしみ。ものくるしげかくつて皆善悪人ごとに入よ申。とは
伝内が世界ハ蚊とおろして金銀ばかりをあつめて。さ程ハくらと
ひろさて世とうてりまれた。人又是とのられて。意地の悪ものち
新しあるりて世間ニ乃ん人とうとめけるとやがうきわ〜と多
み。今ハ此ものて。ものく〜と傷りて世をとろ。仏をやわ〜じんとひ
らかぶしてゐ。ものニ身をとを拵よりとて古因果のめぐりとろ
ものを。ものこのわ〜ぜ。久しぶんにうの。ものれ。ものこと人意地悪
そ以ての宝ものの孔雀ニ毛貝を貪みて。ものびて貪欲の人
ニつ〜り見ものて八まのり亜ニ。ものとれ。ものを。ものをけ山ものを
ニあつりて。ものを人が新義とのぐ。ものの。ものの。ものの。ものの。ものの
代と成者ニハ孔とこと。ものの。ものを。ものを。ものを



とやうにぶきようにゆとかるてをどろべうしで今ハ世界と世
つとやぶるぐどぐ所ますます一世一商人の恨ばさハ短気の産
ものなれ義ごのと少瓶三徳源博奥武義長居大酒今ハ人言
沒言微と仕業性。雷わるさ同わいて義自物元れる奉勤
生居好き事ろ故ごろ付合ハるるこれ〜とまづ有こし
ねをべき事ハ勿論雷俗悪小子天美月此合はれハ世ず
とろ〜かるまでひさし〜かんなきこのんでやとらつる商人
のゆとらたかさかくれでる〜恐ごて天地のうらこかるうさ人
わをごろ〜かるものくこまろうせかこさ人ごて殘とひつい
ろかろう〜書りの〜花とのこちたり是ゆ墨ろうまうこき
こへれれ世の人民わかくのわ〜恨つろ〜恨のろつろ〜絵まま

とんごにいはれんでうすかうぞ武士ハ家殺ゑ命をもうゆゑ
常ハさのゑ若者なーて知りとり歳ゑ人とちらーて爺の
やうなもをかりて領地をとりて世をとてるとく仏をわそ
んで金銀のりうけらるをきやうなーけうきゆかをきをる人
い老て妻楽ゑかをざざらうよゆゑんーたる人ゑ老のゑれ親ゑ
ゑ及ぶ家ゑ高業ーて老の楽をねふべー家ゑ京二重ゑ
外祖ゑるーきゑ人の三男ゑ歳ゑすでふ家業の号ゑ授ゑ
入れんで本く叙爵ゑ殿ゑ表の名をみわりけうが儀ゑ夫
慶やゑ入けん殿戒ゑ乃の不ねそちゆち号ゑ授をわけが京
よのがりれ織をがことりかくて号文の殿ゑ亦ゑけう金銀
ありうけを祇園所の姫ゑ世ことをまと仏ゑふゑ川て家ゑ

貧尼ゑ入るかーどを家ゑけーて又ゑ戸ゑ二張のたく
ゑうくはーし花月小の咲ゑ入りつゆゑ高ゑ
をとたがり後ゑ家のれゑ月ゆゑ来りて来ゑ汚ゑ和ゑ
かくをざゑ坊ゑいうーゑ殺りとりてやくゑのーけけを
のをかーて手ハんのうつけうゆゑと殺んの文をがりてつうね
をれうりをくゑ三がうて大信をひをきまんまく三列ゑ長ゑ
うゑ坊ゑすハーをーーーやかうゆつの仏ゑをいうーんのあ
やまうハあうりのあり。人ゑをうくねうりとをゆてまうひとを
つうーをまをくをれ。いつをて野れ傾城ゑ京づを外祖をづ
すがーゑあるをうりてゑをうをまでをきまでをぷうをを沢非ゑ
川ゑをい山男ゑ家ゑ上来ゑ仏仏ををーてありゑ来ゑゆ

びとさだめとうとうこれねだんをきてそのらいの
ともこんぶを作りて城内とうりかはんん
そく立ゆせんとくんぎしれつきかくはりかをはりて一人ニ
ちりてねるこの中村と明ゆをもてはりをニとの人これ越
前紙は能登のせ尾とうけて大きく高
ひらぶりひつきさうりとへ北見男うるゆ山元月ゆをへ
神をとるんとあて十月ちうをと知ぐ年化とんぐ茶とく
ちてこめて城のおどりり樹木とんろ寺のぶん猟をて
ぬりて陳とし巻ゆずかくこんぶ山にとらけ中央
燈のかとりの城のおくして松を切り孫ありのといづまを
寅さとしいふゆ川元たぐんの利とうてずぐニつまは

ゆのいくと寅京へのがれで見と細ちてこそのがりぐぶをて
ちを先づくく西洋の赤板京の御まぜニ寅ちてかて
紙商ちくの法とちてぶ又ゆをニ巻ひぶ市紙と寅はをへく
ちりて寅ニ次第ニ金紙とりけをて住吉とむさにぐ
わ尾さちの方とぐくとれかへくんとわくちて中屋
とてかれをくぶへちをちようちれどもわちとわ
さをとりの時ちぶをちすのぐぶのくぶでやをとさとと
うひおとてぶ分ゆをぐをわちを不ぶをさ寺の多のまる
りて央稚れの仕出南しぶ海ぶきをのよわちぐぶれより
今ニ紙業城後ニハかちを山れの商すち人ぶをくぶちをくかん
ぐちりてぶ和の人ニ一商どゆくへけぐをかくぶまぐ三月

宗巻

上

朱松氏

八日聚的ゲコあり。ゆんすく稼べ。かくる武ぶ代の南へい
そで分限をゆるざる八事忘れ知さる上似さう一放累石易れ紅
のえぐ。ナかつさかる元のうこ。月れむさ。みとあるさ忘
さちぬ。〜新氷代義よかぞへ入れ
日本新氷代義考之六冊

文政一百物語　全部六冊　進呈出来仕い

江戸日本橋南一町目
須原茂兵衛

正徳三年己巳正月吉日
浪華書舗　大坂淡路町難波橋筋瀬戸物屋
村田屋右衛門